区分別科目	感染に係る薬剤投与関連		時間数 (法定)	30 (29)
特定行為名	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与			
担当指導者	久保田 良浩 (医師) 長山 聡 (医師) 仲原 英人 (医師) 日並 淳介 (医師) 橋本 恭一 (医師) 篠塚 淳 (医師) 我如古 理規 (医師) 中村 真司 (医師) 伊東 真哉 (医師) 仲井 理 (医師)			
学ぶべき事項	(共通) 感染に係る薬剤投与関連の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症の病態生理 2. 感染症の主要症候と主要疾患 3. 感染症の診断方法 4. 主要感染症の診断方法 5. 主要疾患のフィジカルアセスメント 		
	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与	<ol style="list-style-type: none"> 1. 抗生剤の種類と臨床薬理 2. 各種抗生剤の適応と使用方法 3. 各種抗生剤の副作用 4. 感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理 5. 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法 6. 感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用 7. 病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) 8. 感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスク (有害事象とその対策等) 		
研修概要	(共通) 感染に係る薬剤投与関連の基礎知識	感染徴候時の病態生理や主要疾患の特徴を理解し、安全に薬剤の臨時的投与を実践できる看護師を養成する。		
	(A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与	医師の指示の下、手順書により、身体所見 (尿混濁の有無、発熱等) 及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、感染徴候時の薬剤を投与する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、感染徴候があるものに対する薬剤の臨時的投与ができるようになる。 2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。 			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト			
	演習：ペーパーシミュレーションによるグループワークを評価表に基づいて評価			
	実習：評価表 (Mini-CEX) を用いた観察評価			
	試験：eラーニング上で筆記試験を実施			
研修内訳	講義 (25 時間)	視聴時間 45 分 + 講義確認テスト 15 分		
	演習 (4 時間)	視聴時間 (イントロ) 5 分 + グループワーク 45 分 + 視聴時間 (解説) 10 分 ※eラーニング教材を活用して講義室で行う		
	実習	実習は指導者のもと、●●病院で行い、最低 5 症例経験する ※各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。		
	試験 (1 時間)	科目修了試験 (筆記試験) 1 時間 (共通) 感染に係る薬剤投与関連の基礎知識 0.5 時間 (A) 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与 0.5 時間		

授業計画

科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項	担当指導者			
感染に係る 薬剤投与 関連	第1回	講義	放送	(共通) 感染に 係る薬剤投与関 連の基礎知識	感染症の病態生理 (1)	久保田 良浩 長山 聡 仲原 英人 日並 淳介 橋本 恭一 篠塚 淳 我如古 理規 中村 真司 伊東 真哉 仲井 理		
	第2回				感染症の病態生理 (2)			
	第3回				感染症の病態生理 (3)			
	第4回				感染症の病態生理 (4)			
	第5回				感染症の主要症候と主要疾患 (1)			
	第6回				感染症の主要症候と主要疾患 (2)			
	第7回				感染症の主要症候と主要疾患 (3)			
	第8回				感染症の主要症候と主要疾患 (4)			
	第9回				感染症の主要症候と主要疾患 (5)			
	第10回				感染症の診断方法 (1)			
	第11回				感染症の診断方法 (2)			
	第12回				主要感染症の診断方法 (1)			
	第13回				主要感染症の診断方法 (2)			
	第14回				主要感染症の診断方法 (3)			
	第15回				主要疾患のフィジカルアセスメント			
	第16回			演習	面接		(A) 感染徴候があ る者に対する薬剤の 臨時の投与	抗生剤の種類と臨床薬理 (1)
	第17回							抗生剤の種類と臨床薬理 (2)
	第18回							各種抗生剤の適応と使用方法 (1)
	第19回							各種抗生剤の適応と使用方法 (2)
	第20回							各種抗生剤の副作用 (1)
	第21回							各種抗生剤の副作用 (2)
	第22回							感染徴候がある者に対し使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理
	第23回							感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の適応と使用方法
	第24回							感染徴候がある者に対し使用するその他の各種薬剤の副作用
	第25回							感染徴候がある者に対する薬剤投与のリスク (有害事象とその対策等)
	第26回	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) : 肺炎						
	第27回	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) : 尿路感染症						
	第28回	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む) : CDI						
	第29回	病態に応じた感染徴候がある者に対する薬剤投与の判断基準						

				(ペーパーシミュレーションを含む) : MRSA	
--	--	--	--	--------------------------	--

授業計画					
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項	担当指導者
感染に係る 薬剤投与 関連		実習	面接	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与（見学） ※患者に実技を行う前にモデル人形等を利用し、技術訓練を行う	
				感染徴候がある者に対する薬剤の臨時の投与	
	第 30 回	試験	試験	科目修了試験（筆記試験）	

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	<ul style="list-style-type: none"> * e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う（祝祭日を除く）。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。 * 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。 * 科目修了試験（筆記試験）は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。